

全体の概要

本校正答率は、県の正答率をやや下回る。無回答率は県よりも低く、何とかして答えようという意欲は見られる。領域別では、言語事項の「漢字の読み」は県よりやや上回った。それに対して、記述式や「活用」に関する問題に対して県より大きく下回っている。したがって書く力を伸ばすために、日頃より読書量を増やし、根拠を明確にして自分の考えや感想を書く機会を増やす手立を考えたい。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
話すこと・聞くこと	<p>本校正答率は県をやや下回っている。「必要に応じて質問しながら聞き取ること」や「事実と意見との関係に注意しながら、具体的な根拠を示して話すこと」は県も「十分達成」も大きく上回っているが、「聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す」ことは、県の正答率を大きく下回っている。</p>	<p>相手や目的に応じて、分かりやすい語句を選択して話ができるように、授業中に話し合い活動を多く取り入れ指導を図る。</p>
書くこと	<p>本校正答率は「十分達成」をやや下回っている。「集めた材料を分類するなどして整理すること」や「書いたものを読みあって、意見を述べる」ことはできているが、根拠を明確にして自分の考えを書くことができていない。</p>	<p>与えられた条件や資料をもとに、自分なりの意見をまとめさせる。その際、根拠を明らかにして書く習慣をつけさせたい。さらに、自分で推敲する機会を増やしていく指導を図る。またお互いの意見を尊重し合う雰囲気や寛容さを身に付けさせる必要がある。</p>
読むこと	<p>本校正答率は県とほぼ同じである。「文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解すること」はできるが、付加的な部分を読み分け、捉えることができない。さらに、自分の考えを明確にする事ができない。</p>	<p>日頃より、授業中の話し合い活動を多く設定し、付加的な部分を読み取る活動や自分の意見を根拠をもって述べる活動を取り入れ、正確な読解力の向上につなげるよう指導を図る。さらにお互いの意見を尊重し合う雰囲気や寛容さを身に付けさせる必要がある。</p>
言語事項	<p>本校正答率は県とほぼ同じである。漢字を正しく読む力と書く力は県の正答率を大きく上回っているが、漢字の成り立ちについてや文節どうしの関係については理解できていない。古文の領域で、歴史的仮名遣いが正しく現代仮名遣いに直せていなかった。</p>	<p>言語に関わる知識はあるが、それを文章の中で活用することが苦手である。したがって、漢字の習得については今後も継続して宿題と漢字テストを連動させ、生徒の意欲を喚起する。さらに、話し合い活動や作文活動を多く取り入れ、自分の意見をしっかり述べたり書けたりできるよう指導を図る。また、古文の知識も時間がたつと忘れてしまっているので、機会を見つけて反復学習を行うようにする。</p>

全体の概要

全体の正答率は、昨年の4月、12月調査よりやや上回っており、県平均を大きく上回る結果である。観点別においても「見方や考え方」「知識・理解」の2つの観点とも上回っているが、特に「技能」は大きく上回っている。生活・学習状況においても、「数学の学習は好きだ」という問いに対しても「当てはまる、どちらかというと当てはまる」と答えている生徒が県と比べると大きく上回っている。また、「数学の授業で学習したことは、将来役に立つか」という問いに90%以上の生徒が「当てはまる、どちらかというと当てはまる」と答えており、数学に対してとても好意的な気持ちで学習に取り組んでいる生徒が多い。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
見方や考え方	<p>全体としては、県の平均をやや上回る結果となっている。問題7問中、県の正答率にとどかなかった問題は3問である。「数量の関係を捉え、方程式をつくる」や「事柄が成り立つ理由や反比例であることを説明する」は県の正答率を大きく上回っている。差が大きかったのは、「数量関係を捉え、変化や対応の様子を予想することができる」や「資料の傾向をとらえることができる」であった。また、言葉による説明や証明等に関して無答になってしまう生徒の割合もやや増加傾向にあると思われる。</p>	<p>見方や考え方を問う問題は、難易度も高く、思考を問われるため、無答率が高くなる傾向がある。また、問題に慣れていないこともあり、正答率も下がる傾向にある。そのため、説明や証明についてあつかう時間を確保し、解答の方法に慣れさせる必要がある。また、その必要性や有用性を理解させることが大切である。そこで、グループ活動を取り入れた授業や、様々な場面(定期テスト・課題)で同様の問題を取り扱っていく。</p>
技能	<p>全体としては、昨年の4月調査の結果からさらに好転しており、県の正答率と比べると大きく上回る結果であった。問題14問中、県の正答率にとどかなかった問題は2問である。特に、「方程式や比例式を解く」は県の正答率を大きく上回っている。「分配法則を用いた文字の式の計算」の正答率がやや低かった。</p>	<p>基本的な技能を再確認し、繰り返し練習・習熟させるための時間を確保していき、さらに技能を高めていく。そのために、週末課題や小テストを定期的に行っていく。また、定着が不十分な生徒には、昼休みや放課後を利用した補充指導を行っていく。問題に取り組みさせる機会を、数多く設け、既習内容をいつでも使えるようにしていく。</p>
知識・理解	<p>全体としては、県の平均をやや上回る結果となっている。問題11問中、県の正答率にとどかなかった問題は3問あり、「図形」はすべて県の正答率を上回っている。差が大きかった問題は、「近似値の意味について理解している」であり、「資料の活用」については、十分に定着している生徒とそうでない生徒にはっきり分かれてしまう傾向が強い。</p>	<p>基礎的な知識を身につけきれていない生徒に対しては、繰り返して復習させる必要がある。そのためにも、まず学習に関する良い習慣を身につけさせるとともに、個別指導の機会をできるだけ設定し、意欲を高めていく。また、小テストや定期テストなどに出題していき、生徒にも必要性を意識させていく。</p>

全体の概要
 学校生活に満足している生徒は多いが、自律的な学びができていない生徒は少ない。

①数値が高い項目

※4件法の「1 している(当てはまる)」、「2 どちらかといえばしている(当てはまる)」の回答割合。

番号	項目	本校	県
3	友達に会うのは楽しいと思う。	98.0	97.3
4	人の役に立つ人間になりたいと思う。	94.0	95.8
12	学校の宿題をしている。	94.0	93.3
55	授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなったと思う。	94.0	83.8
57	朝食を毎日食べている。	92.0	92.6
1	学校に行くのは楽しいと思う。	90.0	87.3
2	学校では落ち着いて勉強することができていると思う。	90.0	87.3
17	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。	90.0	82.4

<分析>

- 学校生活(友人関係、学級の雰囲気)に満足している生徒が多い。
- 教師の授業の手立て(ICTの利活用、学習形態の工夫)を好意的に受け止めている生徒が多い。
- 社会の一員として活躍するという目的意識を持ち、日々の生活を送っている生徒が多い。
- 与えられた課題に対しては前向きに取り組む生徒が多い。

<取り組み>

今後も一人一人の生徒理解を中心に据えた、学級経営や授業設計、進路指導などに努めていく。その際、生徒指導の三機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定)を有効に機能させながら指導にあたっていきたい。

同時に未然予防の視点を忘れず、各種アンケート(いじめアンケート、教育相談アンケートなど)の実施や気になる子への声かけ、教科担任と学級担任等との情報交換など、組織的に生徒の育ちを応援していく。

②数値が低い項目

※4件法の「1 している(当てはまる)」、「2 どちらかといえばしている(当てはまる)」の回答割合(但し、62番は除く)。

番号	項目	本校	県
13	学校の授業の予習をしている。	42.0	40.9
15	苦手な教科の勉強をしている。	56.0	62.2
11	自分で計画を立てて勉強している。	60.0	55.0
62	学校の授業時間以外に、普段、読書をまったくしない。	38.0	29.7
36	読書は好きだ。	64.0	72.6
64	新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりしますか。	64.0	78.3

<分析>

- 学校外での学習を、自ら進んで意欲的に取り組むよう支援していくことが課題である。
- 生徒自身の人生観や世界観を広げるためにも、幅広いジャンルの本に親しんだり、新聞やテレビのニュースなどに触れる時間を増やすことが課題である。

<取り組み>

- 生徒が予習する意味や必要性を感じるよう授業担当者が工夫していく(例えば、授業内容と絡めた予習課題を出したり、予習する意味を説いたりする。)
- 苦手意識をもっている生徒も簡単に取り組める課題(基礎的な内容)を定期的に課していく。
- 教師が機会ある度に、時事問題や自分が読んだ本について触れることで、生徒の読書意欲や社会への関心を高めていく。